

役員自己紹介

幹事 佐藤満寿哉

初めてメンバーのリストを見て、神奈川のJICA専門家達の何と多彩な専門を持ち、多くの国へ行っている事か。その上、共に任国した奥さんや家族の方々の、その国への理解度は生活に関してなら、むしろ専門家を凌ぐかもしれません。任国した先は、アジアはもとより中南米、アフリカ、ヨーロッパにも及んでいます。専門分野を含めて皆様の得た経験を国内にも生かしてこそ、真の国際協力・交流だと思います。行った国を殆どの人が好きになるとか…。行った国から日本に来た人が、今何か困っているかもしれません。これから、その国へ行く人がもっと事情を知りたいけれどその方法を知らないでいるかもしれません。そんな事に私達の力が少しでも役に立つならば、少しでも任国の本当の事情を分かってくれる日本人が増えてくれれば、この会から作り出すものはとても大きくなることでしょう。是非皆様のお力をお貸しください。



幹事 鈴木千明

この度、第一回総会に於いて幹事に承認されました、横浜市役所の鈴木千明でございます。私の専門は上水道で98年から2001年まで3年間シリア・アラブ共和国ダマスカス市に赴任しておりました。総会を通して皆様のご経歴、ご経験を伺いますと改めて幹事のポストには私では力不足ではないかと痛感している次第です。



さて、総会中や総会後の和やかな親睦会では、皆様の率直なご意見を伺うことができ、今後の会の運営方針に大変参考になりました。例えば、神奈川県ならではの、層の厚さを生かし、単なる親睦会にとどまらずNPO化して、独自の国際協力を模索してはどうかと言うような意見もいただき、総会後の幹事会では真剣に検討することとなりました。ちょうど私が働いております横浜市でも、市長の指導のもと、民の力が存分に発揮される社会を理念の一環にし、市民や企業、NPO法人が自己実現できる社会を目指しております最中ですので個人的にも非常に興味深いことであります。

最後になりましたが、総会後急きょフィリピン共和国マニラ市への短期専門家での派遣が決まり、しばらくの間日本を離れることとなってしまいました。派遣中は他の幹事の方々や会員の皆様には多大なご迷惑をおかけすることとなりますが、インターネット社会でありますし、赴任先で現役の専門家のお話でも聞いて、帰国後にぜひ入会したくなるような会を目指し、しばらくは国外から参加していきたいと思っております。

監査役 物部宏之

平成12年7月にフィリピンの中央ルソンに位置する「フィリピン国立稲作研究所」に農業機械の専門家として派遣され平成14年7月に帰国しました。赴任中、仕事の合間にフィリピンの鉄道廃線跡をフォローし、その75%踏査しました。フィリピンには1200kmの鉄道線路がありましたが、500kmが運行中、700kmが廃棄されています。



ブラカン州バンバガ川鉄橋 1892年開通、1991年廃棄 H13.9.21撮影

廃棄は1935年頃から始まっておりますがそのうち500km余について要所要所の写真を撮り地図上に地点を確定し住民にもインタビューして建設と廃棄にいたる歴史を調べました。

鉄道同好の士がいらっしゃいましたら是非お声をかけてください。図は1991年に廃棄されたブラカン州の鉄橋です。

同時に日本がフィリピンを占領した1941年から1945年に発行された軍政切手約60種もすべて収集しました。しかし切手の振り出し物は1枚だけでした。

本会には国際経験豊かな方で次の出番をまっておられるメンバーが多いと伺っています。神奈川の国際交流に積極的に係わる場の構築に努力したいと考えております。

是非盛大にやりましょう。監査役と言っても会社のそれとは違って汗だし役ですが小なりといえどもアカウントビリティ（説明責任）とコンプライアンス（法令順守）はついて回りますので開かれた連絡会にするよう努力します。

事務局 谷保茂樹

事務局担当の谷保です。本会を楽しく実り多いものとなるよう側方、後方、時にはしゃしゃり出て前方からもサポートさせていただきます。会報もその意向に添ったものをこれから発行していきたいと考えていますので、みなさんのご意見、ご希望をどしどしとお寄せ下さい。なお、本会の拠点はJICA横浜国際センター国際協力連絡室内にもありますが、事務局は当分、株式会社ティーエーネットワーク（TANetworking Corp.、〒227-0062 横浜市青葉区青葉台1-3-9コスモビル5F、Tel：045-988-4116、Fax：045-988-4117、E-Mail：Staniho@aol.com）の中におきます。こちらへ来られる折には是非お立ち寄り下さい。

メッセージ

JICA 国内事業不国内連携推進課 徳田小矢子氏（帰国専門家連絡会担当）

JICAは、開発途上国地域の経済・社会発展に寄与するため、さまざまな分野の技術を有する人材を「専門家」として海外に派遣しています。専門家は、ODAにおける技術協力の担い手として、国際協力の最前線で活躍しています。

専門家は、帰国後も国際協力の良き理解者として、日本各地でそれぞれの専門分野で活躍するかたわら、JICA研修員の受け入れや専門家候補者へのアドバイス等、JICA事業への協力を継続しています。また、地元自治体やNGOが取り組む国際交流／協力活動に参加し、帰国後数年を経て再び途上国現場に赴任する方も少なくありません。

こうした帰国専門家間の横のつながりを強化し、自主的な活動を支援するため、平成3年度に「帰国専門家連絡会」の結成が始まりました。当初は15の連絡会からのスタートでした。

帰国専門家連絡会の活動は、国際協力セミナーや市民講座の開催、パネル展の開催、学校での国際協力活動紹介、研修員受入の支援など多岐にわたりますが、特に国際協力の担い手の裾野拡大、ODAに対する市民の理解促進においてリーダーシップをとっていただくために、JICAの各国内機関が窓口となり、活動支援を行っています。

平成15年2月現在、全国で42の連絡会が結成されており、会員数は約3,100人を数えます。今後本会がますますご発展されることを記念申し上げます。